

# 農業大学校だより

vol.21

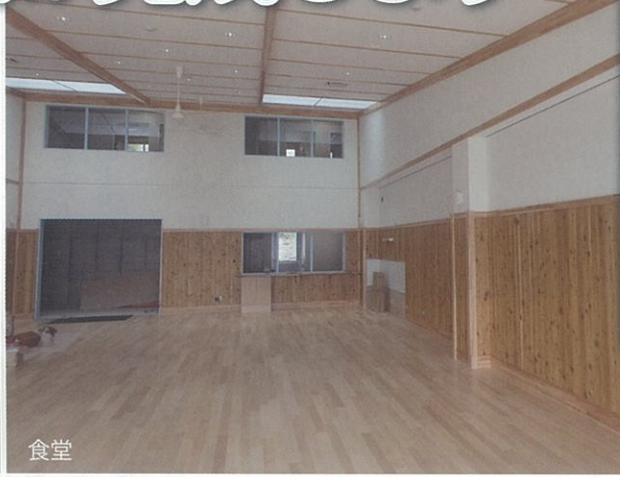
農大改革特集号

農大改革にあわせて新しい寮と農場  
総合管理棟が完成します。今年から入  
学される学生はネット環境も整備され  
た全寮個室の学び舎で勉学に励むこと  
となります。

## 新しい学生寮が完成します



農場総合管理棟



食堂

### 目指せ日本の農業の トップリーダーを



農業大学校総合農学科  
後援会長

清宮 利花

長野県農業大学校は昨年度  
創立百周年を迎え、今年度よ  
り新たな百年に向けて歩みを  
始めました。今年度から新たに  
実践経営者コースが設立され、  
日本の農業界のトップリーダー  
となるべく、農大生への期待は  
高まるばかりです。

日本の農業界を巡る情勢は、  
TPP等問題は山積みですが、  
農大生の皆さんには「これから  
の日本の農業は長野県農業大  
学校の卒業生が引っ張っていく  
から大丈夫」という印象と期待  
を持ちます。

農大生の皆さんは、農大を卒  
業後、就農、農業関連企業への  
就職、進学、一般企業への就職等、

それぞれの道へと進まれるわけ  
ですが、農業関連の道に進むか  
否かに関わらず、皆さんがこの  
長野県農業大学校で学んだ農  
業の魅力やこれからの日本の農  
業の主役となる若者の姿を社  
会にどうか伝えていただきたい  
と思います。

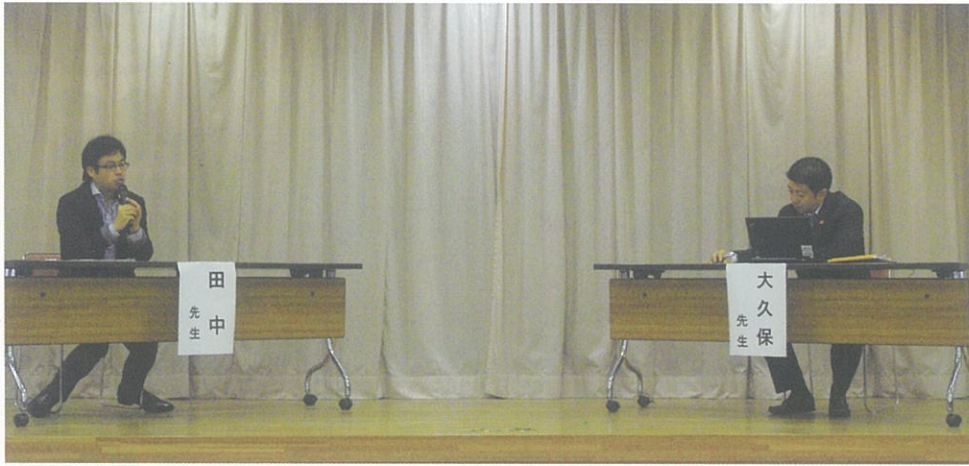






第2回 農大特別公開講座 〈強い農業経営者をつくる〉

農業大学校では、NPO法人産学連携推進機構理事長 妹尾堅一郎氏、新日本有限責任監査法人CSR推進部長 大久保和孝氏、農業生産法人(株)サラダボール社長田中進氏の三名を客員教授に委嘱し、農業に関する最新知識の普及を目的として客員教授を講師に「農業大学校特別公開講座」を開催しています。



十二月二十八日、JA研修所で十二月二十八日には「強い農業経営者をつくる」と題して、「農業大学校特別公開講座」第二弾、大久保客員教授×田中客員教授のお二人のご講演と対談講座を開催しました。

金融業界から十一年前に農業へ転身をして、今や日本を代表する農業経営者となっている田中先生からは、強い農業経営現場を作るためには、ヒューマン・リソース・マネジメントがカギであるとお話がありました。自身の農業への想い、それを具体的にカタチにする、農業現場への落とし込み、そして、強い農業現場を作るための十のファクターの話を会社での実践、経験を交えてお話がありました。

日本を代表する監査法人のシニアパートナーである大久保先生からは、農業が地



イギリス哲学者、ウィリアム・ウォードの言葉、「平凡な教師は指示をする。良い教師は説明をする。優れた教師はやってみせる。偉大な教師は心に火をつける」がサラダボールの人材育成の方針なんです。

品評会で金賞を何回取りました。有機無農薬や機能で競争すると切りがありません。最後は価格競争しかありません。生産に対して想いを作ることが実は最大の差別化につながるんです。



域を変えていくには、ブランディングと財務管理がカギであるとお話がありました。①事業計画を作る(想いをカタチにする、儲ける仕組みを作る)、②関係がないと思ってきたことをどれだけ「自分事」として自分に取り込むことができるか、③生産に対して想いを作ること(モノ作りとは作り手の想いを表現すること)のお話がありました。

また、会場からメールで質問をいただき、それにどしどし答えていくという出席者参加型の斬新な意見交換もなされました。次々と入る質問メールを手際よく整理される大久保先生。それに、具体的な例を交えて、わかりやすい言葉で的確に答える田中先生。三時間があつという間に過ぎ、本校学生はもちろん、一般からご参加くださいました皆さんからも、高評価をいただいた公開講座となりました。

プレミアム講義

六月二十六日、実践経営者コース向けに大久保客員教授によるプレミアム講義が行われました。

事業計画を立てる意味等、経営のあり方の本質論をわかりやすく講義していただきました。

十二月十一日には、田中客員教授によるプレミアム講義が行われました。清涼飲料水のネーミングの付け方等、具体的な素材をもとに議論しあうゼミは刺激的なものでした。





## 農業機械の操作方法をプロから学ぶ

農業大学校では、大手農業機械メーカーと締結した「長野県農業を担う人材の育成支援協定」に基づき、最先端の農業機械技術を学ぶ授業を行っています。

九月十六日、コラボ企画の第二段として、実践経営者コース一名と果樹コースの二年生六名が、株式会社東甲信クボタの社員から、果樹作業機、高所作業車や乗用草刈機の運転、操作方法、保守点検の方法等の直接指導を受けました。りんごやブドウを枝にならせたまま果実を傷つけることなく糖度や酸度が測定できる「フルーツセクター」の実演もされ、学生たちは、早速樹に付いたままのりんごの上枝と下枝のりんごでの糖度と酸度の差を確認していました。



十一月十四日、農業大学校の実践経営者コース七名と各作目別コース年生三十四名が、ヤンマーアグリジャパン株式会社東甲信越カンパニーの社員から転倒角シミュレーターの実技研修を受けました。農業中の死亡事故の六割は、トラクターや耕耘機の転倒、転落事故です。今回初めて転倒角シミュレーターを体験した学生は「かゆいところに手の届く内容で大変参考になりました」「トラクターが転倒する角度を実体験でき、改めて事故の怖さを実感しました」とやや緊張した表情で受講していました。メーカー毎に特長ある現場で使える専門知識、スキルを学ぶことはありがたいですね。

## プロジェクト発表会

十二月三日から四日にかけて、二年生五〇名のプロジェクト発表会が開催されました。学生一人一人が自らテーマを考え、農場での栽培管理等「実践」を通じて得られた研究成果を発表するもので、農業大学校の実践型教育の柱のひとつです。倉田彩加さんのシャインマスカットの房づくりの省力化を研究した「ぶどう「シャインマスカット」の花穂整形の違いが果実品質に及ぼす影響」が「現場にも通用するまさにタイムリーな調査研究だ」と高く評価され、最優秀賞となりました。

## 就農に向けたワークショップ

十二月十六日、総合農学科の二年生は特別講義として「若者が就農するためにどうしたらいいか」をテーマにKJ法のワークショップを行いました。必要なものは愛等、若者らしいユニークな意見が多く出されました。





## 教授登場 高橋 隆先生

これはなんでしょう。長野市赤沼の「長沼排水機場」のポンプです。二月十六日、一年生は、高橋隆講師の「農業土木」の見学授業で、長野地方事務所農地整備課に現場案内をしていただきました。畑に水やりができなければ、作物もよく実りませんし、大雨が降れば水浸し。農業を下支えする農業基盤事業。授業では習っていても現地を見るとやはり違います。農産物を出荷する農道の工事現場もご案内いただきました。



## 二年生 スキー教室

一月二十七日、二十八日の二日間、二年生は最後の授業となる体育でスキーとスノーボードを満喫しました。



## 一年生 産地視察研修

学期末の試験も終わった一月一日から四日にかけて、総合農学科一年生は、九州に産地視察研修に行ってきました。

J A熊本うきが運営する直売所でデモポンや塩トマト等、特徴ある農産物を見学したり、「あまおう」「とよのか」「さちのか」等、九州の代表的なイチゴ品種も味わいました。また、長崎県立農業大学校も訪れて、本校とは違った栽培施設や授業内容も学びました。



## 平成26年度総合農学科卒業生の進路状況

\*2015年2月末現在

就農 【9名】	自営【3】	● 自家就農(3名)
	農業法人【6】	● はなまるファーム ● 全農長野三岳牧場 ● 農事組合法人信州森のファーム ● (株)あずみ野エコファーム ● (有)テールマウンテンファーム ● 中島園芸
就職 【31名】	公務員【2】	● 長野県、松本市
	農業協同組合等【15】	● 佐久浅間、信州うえだ(2名) ● 信州諏訪 ● 上伊那(2名) ● みなみ信州(2名) ● 松本ハイランド ● あづみ ● 大北 ● ちくま ● グリーン長野 ● 須高 ● 北信州みゆき
	農業関連企業【7】	● 飯山中央市場(株) ● 丸田農薬(有) ● 三菱農機販売(株)(2名) ● (有)佐久協同 ● (株)千曲化成 ● 長野興農(株)
	その他企業【7】	● 日本連合警備(株)(3名) ● (社福)アンサンプル ● (株)サンコーレンタル ● (株)武重商会 ● (株)アップルランドMDセンター ● (株)グレース
	進学【3名】	● 信州大学農学部(編入) ● タキイ園芸専門学校 ● 日本フラワーデザイン専門学校
	その他【7名】	